

モンブラン登頂成功への道

最高齢（74歳）記録を大幅に更新

川崎市国際交流協会民間交流団体連絡協議会

副会長 松本 浩次郎さん



川崎市国際交流協会では、10年前に、民間レベルでの国際交流事業を推進するため、民間交流団体連絡協議会を設立しました。当協議会には現在110団体が加盟しており、「国際都市川崎市」の国際交流活動には欠かせない存在になっています。協議会は5部会から構成され、各々が専門分野において熱心に活動をしています。

松本さんは、「文化・音楽・スポーツ部会」に所属する「川崎市社交ダンス地域インストラクター協会」の国際部長であり、連絡協議会の副会長としても活発に活躍していらっしゃいます。

松本さんに社交ダンスを始めた動機を伺うと、「姿勢が良くなり、足腰を鍛えるのに最適なスポーツだから。」と語っていただきました。他にも、スキー・登山と多彩な活躍をされています。そして、この度、2004年8月にモンブランに74歳の世界最高齢での登頂を達成されました。今日は、そのときの様子を伺いました。

「モンブラン」登頂に挑まれた理由は

若いころ、登山に熱中していたのですが、仕事人間で登山を中断、リタイアしてからカナダ、アフリカ、ヒマラヤなどでトレッキングや山歩きを再開しました。ある時、山で、みなみらんぼうさんと出会い、その後、毎年同行するようになりました。一昨年10月にヒマラヤの「ランタン谷」へ行き、4500mの山頂で次の年の「みなみらんぼう還暦記念モンブラン登頂」に誘われました。誘われるまま「参加させてください。」と応じたのが始まりです。

モンブラン登頂にどんな準備や訓練を行いましたか

モンブラン（4807m）は、ヨーロッパ・アルプスの最高峰であり、山頂に雪を被った優美な姿は山岳愛好家の憧れです。しかし、危険な山でもあり、去年は落石事故で死者がでて、入山禁止になったそうです。「モンブラン・らんぼう隊」は、冬の富士山登山、厳冬の唐松岳アイゼン歩行などの訓練をしました。個人でも体力を

つけるため、朝の散歩で足首のウエイトを2kgに増量し、また、重いザックを背負って足腰の鍛錬を重ねました。

モンブラン登頂、決行の日までの足取りは

2004年8月1日に成田をたち、スイスのジュネーブから車でフランスのシャモニーへ入りました。総勢17名（男子12名、女子5名）はフランス人ガイドと合流し、最初の2日間は「氷河と岸壁登り」の訓練、いよいよモンブランへの挑戦です。登山電車で終点へ（2387m）、そこで岩登りスタイルで登山を開始、山小屋（3167m）で一泊、翌朝、落石の多い危険箇所を足早に抜け、岩壁を登って、グーテ小屋へ10時過ぎに到着しました。翌夜半に出発予定でしたが、チーフガイドが「今は曇って天候も安定しているから今がチャンス。今から登ろう!」ということになり、大騒ぎになりました。冬装備に着替え、軽食と水を背負ったチームから出発しました。グーテ小屋（3782m）から上は一面の雪世界。ザイルでつながった各チームは、雪尾根の急坂で息を切らし、避難小屋（4362m）辺りで疲れは極限に達しました。一度は弱音を吐いたのですが、ザイル仲間の励まし、登坂して降りてきた女性仲間の励ましの声に奮い立ち、最後の狭くて急な雪陵を登りきって、モンブランの山頂に立ちました。先行して私のチームを待ち受けていた「らんぼうさん」とがっちり握手2人の頬を感激の涙が落ちました。瞬間の青空で記念撮影、すぐ下山、夕暮れの雪斜面を滑り降り、薄暗くなったグーテ小屋に戻りました。

モンブラン登頂これからの計画は

登頂を果たして数か月が過ぎ、確かにモンブランはヨーロッパ最高峰の手強い相手だと実感しました。努力だけでなく、強運にも恵まれて目的を果たせたという面も否定できません。よく登山は「人生と同じ」といわれますが、半歩の歩みを止めなかったからこそ「山頂での涙の喜び」がありました。これからも「あと半歩」を思い出し、この先の人生の教訓とし、次の目標に向かって現役まっただ中を歩んでまいります。

国際交流センター有料施設のご案内

ホール（264名）、会議室7室（10名～36名）
レセプションルーム（150名）、料理室（24名）
等があります。どうぞご利用ください。

044-435-7000

ホテルオーロラ

川崎市国際交流センター内 ☎044-455-1109

シングル¥6000 ツイン¥10500 車椅子対応室あります

B1F レストラン（平日）11:30～19:30（月曜休業）

手作りランチ ¥680～ 大小宴会承ります。